

東京オリ・パラそしてオリ・パラ後を見据え、交通インフラ等の整備を急ぎたい

2月9日に平昌オリンピック、3月9日にパラリンピックが開幕し、次はいよいよ東京オリ・パラの番である。県内では、幕張メッセと一宮の釣ヶ崎海岸で8競技(オリ4、パラ4)が開催されることもあって、各種交通インフラの整備が進められている(表参照)。

まず、成田空港では、空港内の利便性向上に向けて、第3旅客ターミナルの機能強化やJR空港第2ビル駅の二重改札解消などが19年度中に実施される予定である。第三滑走路新設(東京オリ・パラ後に実現)や夜間飛行の制限緩和(同前に実現可能)など機能強化に向けた協議も進んでいる。昨年6月に開催された4者協議会(空港周辺9市町、県、成田国際空港株、国土交通省)では、夜間飛行制限の緩和について、現状より3時間延長する案から1時間延長へ見直す案などが示された。12月には県が空港周辺9市町の地域振興策の骨子案をまとめており、今後周辺住民の理解が得られるような具体的計画の策定と実現が求められる。

次に道路網をみると、外環道の三郷南IC~市川市高谷JCTが今年6月までに開通する。圏央道では18年度予算で1兆5千億円の財政投融資が盛り込まれ、県内未開通区間の大栄JCT~松尾横芝IC間で用地取得が順調に進めば2024年度に全通する目途が立った。また、北千葉道路では17年6月に市川~国道16号間(15km)の整備が直轄事業と有料事業の合併施工とすることが確認され未開通区間の事業加速化に向けて動き出した。

もとより東京オリ・パラに向けた交通インフラの整備は、開催期間中の関係者・観客の円滑な県内移動のためだけに行う事業ではない。人口・経済の首都圏一極集中が進む中で、千葉県がアクセス改善を通じて首都圏全体の需要を取り込み、人口を増やしつつ今後とも持続的に発展していくうえでの土台・基盤として位置づけられるものである。オリ・パラ開催は、基盤整備進捗のマイルストーンとしても評定される。

建設現場では人手不足感が強く、その影響もあって外環道千葉県区間の開通が計画比3か月遅れとなったが、ICT活用や働き方改革による生産性向上と担い手確保を通じて、オリ・パラ開催に向けたハード・ソフト両面の万全の準備を官民一体で急ぎたい。(矢野)

【表】県内主な交通インフラ整備状況

事業		完成時期	内容
成田国際空港	第3ターミナル機能強化	①19年夏 ②③19年度末	①出発・到着動線の分離、②高度な保安検査機器の導入、③手荷物搬送システムと検査機器一体化による時間短縮とセキュリティレベル高度化を進める
	JR空港第2ビル駅の二重改札解消	19年度中	JRで到着した利用客がJRと京成電鉄の二つの改札を通らなければならない「二重改札」が解消される見通し
	空港内トイレの全面リニューアルとユニバーサルデザイン化	20年まで	17年8月にリニューアル第1弾として第2ターミナル内にデザイントイレをオープン
	滑走路新設など空港機能の強化	未定	夜間飛行制限の緩和、既存滑走路の延長・滑走路増設について周辺9市町等との調整が進められている
外環道	三郷南IC~市川市高谷JCT間、15.5kmの開通	18年6月まで	17年度末の開通予定が延期された。開通により京葉道路・東関道と繋がり、首都高を経由せず北関東へアクセス可能になる
圏央道	大栄JCT~松尾横芝IC間、18.5kmの開通	24年度	17年4月25日、国土交通省が今年度中に着工すると県に通知。9~10月にかけて本体工事の一部発注。12月に完成目途が示された
北千葉道路	全線43kmの開通(現在26kmが開通済)	未定	17年6月9日、整備が遅れている西側区間(市川~国道16号間)は、直轄事業と有料事業合併施工の計画とすることが確認された。成田市船形~押畑間は18年度開通予定
茂原一宮道路	長南町~一宮町区間約11kmの開通	未定	長南町~茂原市区間の部分開通(約7kmのうち4km)に向けて整備が進められている
銚子連絡道路	山武市~銚子市約30kmの開通	未定	06年に松尾横芝~横芝光IC(5.9km)が開通済

(出所)各HPなどから、(株)ちばぎん総合研究所が作成。